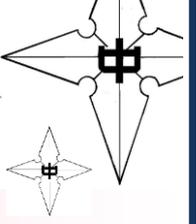
	<h1>南浦和中だより</h1>	
〒336-0026	さいたま市南区辻 6-1-33	TEL 048(863)0753
FAX 048(836)1589	さわやか相談室直通	TEL 048(837)5909

## 『太陽は罪な奴』

校長 おお こうち のり かず 大河内 範一



私が小学生だった頃、実家にはまだ冷房がなかった。学校から配布される「夏休みの過ごし方」というプリントには、「夏休みの宿題は、午前中のまだ涼しいうちにやりましょう」という文章が決まり文句として掲載されていた。(まあ、そんな忠告は聞かず、遊び呆けていたのだが・・・) 部屋の窓を網戸にしていると外から風が入ってきたが、熱風ではなかった。チリンチリンという風鈴の音色も、ちょっと涼し気だった。その後、私が中学生になってから冷房が配備された。スイッチ1つで冷風が出てきて、家の中が一気に涼しくなったので、家族で感動し狂喜乱舞した記憶がある。

中学時代の部活動では、「活動中は水を飲んではいけない」という世の中の逸話となっている、今では考えられない決まりがあった。あの時はとにかく喉が渇いていて辛かった。「水が飲みたい、水が飲みたい」ということばかり考えて練習していたので、集中して効果的な活動ができるわけがない。ギラギラ照り付けてくる太陽が恨めしかった。振り返ってみれば不思議な時代だったと思う。

教員になって最初の4年間は柔道部の顧問だった。まったくの未経験だったのだが、学校の事情で任命された。体の大きな生徒たちばかりで、バタンバタンと投げられたり、身動きが取れず息苦しくなるくらい抑え込まれたり、とにかく惨めな姿ばかりだった。しかしながら、活躍できた場面もあった。夏休みの練習では、最後のメニューが「校庭10周」と決まっていて、毎日一緒に走っていた。柔道部員の多くは走るのが苦手だったので、この時ばかりは軽量級の生徒たちといつもトップ争いをしていて気分がよかった。心なしか太陽もニコニコしていたような気がする。走っていたのはちょうど正午前後の時間帯で、確かに校庭は暑かったのだが、長時間走っていても危険な感じはしなかったと記憶している。

昭和、平成と生きてきたが、この令和の夏は暑すぎる。昨年度は、気象庁の観測史上、最も暑い夏と言われたくらいだ。夏がこれほどまでに高温になっている原因として、大気中の温室ガスの増加、海面水温の上昇、偏西風の蛇行などが挙げられており、地球規模の気候変動が起こっている。もはや、ちょっとやそっとの心掛けではどうにもならない域に達しているのである。太陽から放射される紫外線についても私は無防備なほうで、日焼け止めやサングラスもあまり使用していない。自分の皮膚や眼球にも、もう少し配慮しなければならないと猛省している。

夏の暑さや過ごし方については、全ての人々が改めて考え、行動していかなければならない。今年も猛烈な暑さが予想されているので、とにかく健康第一で、そして「命」最優先で過ごしてほしい。2学期に全員が元気に再会できることを心から祈っている。